

次期学習指導要領 1枚まとめ｜中学校

理科 中学校

小中高を4分野でつなぎ、デマに流されない科学の目を育てる

10秒でいうと　「科学とは何か」や研究倫理を学ぶ「科学ガイダンス（仮称）」を新設する案

中学校の理科は、「科学ガイダンス」を新しく設ける方向です。科学とは何か、理科の全体像、研究倫理などを学ぶ内容です。内容は小中高共通の4分野（物理・化学・生物・地学）で整理する方向です。新しい見方・考え方には、社会の言説も科学の目で批判的に考えることが入る案です。SNSでデマが広がる時代への対応とされています。

1 「科学ガイダンス」を新設

理科と社会・職業との関係が十分理解されていないことが課題とされています。そこで、科学とは何か、理科の全体像、研究倫理などを学ぶ「科学ガイダンス」を中学・高校に新しく設ける方向です。知識の暗記を求める指導にならないようにとしています。P187

授業では 1年の最初に「科学的に確かめるとはどういうことか」を、身近なうわさ話を例に話し合う。そんな導入の授業が考えられます。

2 社会の言説も科学の目で

新しい見方・考え方の案は「自然や社会の事象・言説を」科学の視点で捉えるものです。実験の結果や科学的な知見に基づき、客観的・論理的・批判的に考えます。非科学的なデマがSNSで広がる時代に、科学的な素養をすべての人に身に付けることがねらいとされています。P183

授業では 健康食品の広告の主張を読み、「どんな実験なら確かめられるか」を班で考える。そんな学習が方向に沿う例です。

3 小中高を4分野でつなぐ

今は校種によって分野・領域の分け方や用語が違うことが課題とされています。次期は、小中高共通で物理・化学・生物・地学の4分野で学習内容を整理する方向です。各分野はさらに3つ程度の「区分」に分け、中学校3年間で身に付けたい姿を示すとしています。P183 P186

授業では 単元の初めに、小学校で学んだ同じ分野の内容を振り返り、高校でどう発展するかも示す。そんなつなぎ方が考えられます。

4 学び直しや発展的な実験の時間

調整授業時数制度の対象に理科も入るとされています。「裁量的な時間」を使えば、理科の授業を発展させた観察・実験の体験プログラムなどが考えられるとしています。校内での単元構想の研究なども例としてあげられています。P190

授業では 裁量的な時間を使い、授業で学んだ内容を発展させた野外観察を行う。そんな取組が一例として考えられます。

ほかにも変わること（中学校）

- 中学校・高校に「科学ガイダンス」を新設する方向 P183 P187
- 学習内容の見直し・精選で授業時間に「余白」をつくる P189
- 小・中・高の学習内容を4つの「分野」（物理・化学・生物・地学）で統一 P183 P186
- 目標と「見方・考え方」を小中高で統一し、社会の情報も対象に P183 P185
- 「科学的な探究」の過程を教育課程全体に位置付け、用語もそろえる P182 P183
- 表形式化は「並列パターン」、「統合的な理解」は平易に示す P186

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。
ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。